



2008～2009年度
国際ロータリーのテーマ

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2760
国際ロータリー第2760地区ガバナー 片山主水

地区報

2008～2009

08年度(平成20年度)ロータリー愛知81

奉仕の理想

2月

2009年2月1日

世界理解月間、ロータリー創立記念日(2/23)
世界理解と平和週間(2/23～3/1)

目次

私とロータリー	①
活動	②
事業	③
親睦	③
随筆	⑤
雑感	⑥
川柳	⑥
善語座右	⑦
「名古屋城検定」 片山主水	⑦
投稿要領	⑧



【福寿草】

撮影 東尾張分区 名古屋城北RC 太田 達夫

残雪の間から顔を出し可憐な花を咲かせます。春の到来を感じさせます。



【鬼祭り】 撮影 東三河分区 豊橋RC 山田享司

国の重要無形民族文化財である「鬼祭り」は安久美神戸神明社の伝統の祭りです。毎年2月10日11日、時折小雪の舞う中で繰り広げられる天下の奇祭として知られています。

私とロータリー

●一宮中央RC(西尾張分区)
ロータリー、出会いと別離

森 榮

入会してもうすぐ20年になる。私にとってロータリークラブは「人」につきる。

多くの出会いがあった。WCSで訪問したチエンマイのキツチャ歯科医師夫妻や世界大会で会った青年交換委員会のメンバーとはクリスマスカードの交換をしている。そして何よりの出会いは、例会のたびに誘い合う仲間たちとである。この仲間たちがいるからこそ続けられるロータリー。それだけに別離はつらいものである。退会した人とはまた会える。逝った人にはもう会えない。

5年前、私が主治医からガンの告知を受けた時、ちょうど見舞いに来てくれていた仲間の一人が、つい先日亡くなった。同じ高校で学び、一緒に仲間から還暦を祝ってもらった5ヶ月違いの弟のような彼の、最後の例会出席となった日、私は、いつもならその後控えている業界の会議がなかったので、「今日は付き合

えるよ」というと、はじめは、「体調が悪いので今日は帰る」といつていた彼であるが、「榮ちゃんが行くなら」と皆と一緒にスナックに繰り出した。

私達は、懐かしい青春時代のメロディーを大声で歌った。彼も歌った。「がんばって生きててよ」、もう全身にガンが転移したという彼に、私は泣いてそう言ってしまった。やることはやったから思い残すことはないと言っていた彼が、その時初めて涙を見せた。

その後、皆が心で泣きながら歌った「昂」。

彼を送る日、私はまた、あふれる涙で葬送の曲となったその歌を聞いた。



在りし日の森 義治君、女性会員とともに。
左より大道洋子君・森 義治君・森 榮



活動

●名古屋中RC(西名古屋分区)

創立40周年記念

「世代交流50年への炉談の夕べ」

創立40周年記念事業実行委員長

片山敬勝

まだ先のことはあるが、名古屋中RCは2009年10月に創立40周年となる。現在、その準備を始め、何をやるか企画中である。

いくつかのアイデアの一つに「世代交流 50年への炉談の夕べ」がある。名古屋中RCは、創立当初から「お互いをよく知り合い、若さと品格のある楽しいクラブ」のコンセプトが今も生きている。名古屋市郊外に初代会長所有の「和合山荘」がある。以前には会員が酒を酌み交わし大いに語り合った所だ。この原点の場に戻る。

各世代を交えて数回に分けて実施するが、ただお酒を飲んで食事をして盛り上がるだけにはしない。テーマを持って語り合う。「40年の歴史を知り・こんなクラブでありたい・50周年に向けての理想を話し合う・お互いをよく知り合う。」退会防

止が重要になってきている中で、お互いに友情を深め、プライドのもてる理想のロータリークラブへ進むことを期待している。

そして、この内容をクラブのウィークリーに毎回少しずつ掲載していく。ある一日だけが記念日として終わるのではなく、この年度が40周年であることをいつも意識できるよう盛り上げたい。

検討中のアイデアの一つを紹介しましたが、40周年委員会では今までの記念事業にとらわれず、40年から50年に向けて素晴らしいロータリークラブになるべくディスカッションが行われています。

●名古屋栄RC(西名古屋分区)

あしなが育英会

副幹事 小橋忠直



先日、当栄ロータリークラブの社会奉仕委員会の活動の一環として名古屋は栄、三越百貨店の前で行われました、あしなが育英会の募金活動に参加致しました。私は今年で3回目の参加ですが、当クラブでのこの会への募金活動の参加は

今年で、4年目になります。

思い起こせば、街頭に立つて募金の活動は、中学校時代に年末助け合いと証した募金活動をクラブ活動の一環として寒い中、冬休みはほとんど毎日担ぎ出されて街頭募金をした記憶がございます。

当時は現在のようなボランティアとか社会奉仕とかの意識はあまりなく、ただ人々が毎日の生活が大変で、お互い何か助けあえればと、人々の共通した考え方があったと思いますし、又そうした助け合い活動が友人関係をうまくやって行くひとつの手段ではなかったかと思



左から西田充宏・花井哲朗・原常之(クラブ奉仕委員長)・三浦幸治・大野友三(社会奉仕委員長)

い、懐かしく思いました。

近年は通信手段の発達で寄付活動が電話、携帯、インターネットなどを媒体としての活動に変化してきました。

そこにはただお金のキャッチボールを見るのみで募金活動を通じての温かみが伝わって来ないような一抹の寂しさを感じておりました。

ただお金を寄付するのみではなく、このような街頭に出ての行動を伴う奉仕活動も又喜びもひとしおかと思われれます。

今回もあしなが育英会の募金活動に多数の現役の高校生が自ら志して活動に参加している姿をみるにつけ頭が下がる思いでした。

私自身は短時間での募金活動の参加でしたが、何か心に感じるものがあり又来年もと決意しました。

最後に、あしなが育英会とは、病気や災害、また自死の遺児の進学を支援する団体です。

最近では、自殺などで働き手である父親を亡くす子供も少なくなく、遺児母子家庭の平均勤労年収は、137万円と、一般家庭の約30%で、生活するのが精一杯で教育費を捻出することができません。教育を受



けなければ、不安定な仕事しか就けず、その為に安定した生活を送ることができない、そしてその子供たちも貧困に苦しむといった貧困のサイクルから抜け出すことは困難です。あしなが育英会は、そういった子供たちが教育を受けることで、このサイクルから抜け出せることを目的として、奨学金を支給する運動を続けております。

皆様の御協力をお願い申し上げます。

●田原パシフィックRC(東三河分区) 年次寄付金の実績と DDF事業活動の内容

井上 健

私は会員歴19年に成りますが、年次寄付金のお金の使用内容に付いてはまったく知らずに今まで過ぎてきました。3年前に当クラブでDDF事業を実施した事により貴重な体験をさせて頂きました。今でも当日の施設の子供たちの楽しそうな笑顔が目につかびます。

そして翌年思いもしなかった事が起こり、当時の尾原ガバナー補佐様

から地区役員で有る、補助金委員に指名をされ、軽い気持ちで引き受けましたところ、7月に入って最初の補助金委員会の会議に出席をして大変重要な役目で有る事を痛感いたしました。

さて、ここで一人100ドルの年次寄付金とDDF申請の内容についてオール三河分区内の過去3年間の実績をお伝えいたします。

●オール三河(三河分区内)年次寄付に対する補助金支給額及びDDF申請額 (1ドル=106円換算)

	2005~2006年度	2006~2007年度	2007~2008年度
東三河分区年次寄付集計額	64,634ドル	66,770ドル	70,961ドル
々 補助金支給予想額	685,000円	707,000円	752,000円
々 補助金申請額	713,000円	885,000円	0円
西三河(中)年次寄付集計額	60,030ドル	59,265ドル	77,501ドル
々 補助金支給予想額	636,000円	628,000円	821,000円
々 補助金申請額	0円	0円	500,000円
西三河 年次寄付集計額	57,636ドル	52,777ドル	78,478ドル
々 補助金支給予想額	610,000円	559,000円	831,000円
々 補助金申請額	1,040,000円	200,000円	550,000円

右記の三河分区内の実績を見て感じます事は、皆様方の尊いお金を

事業

●豊橋ゴールデンRC(東三河分区) 20周年を期に

ロータリー情報委員長

谷村 泰裕

折角ご寄付頂きながら、DDF申請が少ない為に、結果的には他の地区へ寄付金が流れてしまっております。ロータリーの基本理念である奉仕の心で、地区内の施設の恵まれない子供たちや地域の住民に奉仕活動を捧げる事により、皆様から喜ばれる奉仕のクラブこそがロータリー活動の精神だと思います。

今後とも地域住民から尊敬される奉仕を目指しましょう。

親睦

●津島RC(西尾張分区) 家族会『越前蟹つくし』

クラブ雑誌委員会副委員長

松崎 安孝

われわれは、総員75名の中小クラブであります。今回は、41名の会員と16名の奥方、3名のお子さま、そして米山奨学生も招いての家族会ということで、日本海に蟹を求めて、旅立ちました。勿論、日頃の家族への感謝の意を込めてであります。

11月30日(日)、早朝7時半に集合。日頃の悪行にて奥方に感謝しな

未来のゴールデンを創造しよう。』を掲げ、市民参加のオペラを共催します。お客様の感動だけでなく、参画した人間全ての心を動かし、喜びを分かち合い、幸せになれるような舞台と運営を目指します。限られた条件の中であっても、あらゆる可能性を探り、最高を求め、最善を尽くします。オペラ開催日は2009年5月30日(土)、31日(日)です。豊橋のアイプラザで行ないます。ロータリーの皆様是非ご来場ください。



左側のMr.ユニクロが、執筆者の松崎安孝・雑誌委員会副委員長。



兄弟仲良しのロータリアンS家一族は、兄が妻と2人の愛娘を同伴、弟は夫婦で参加、元気いっぱい楽しめました。



日本海産保障タグ付の蟹をじっと見る。

ければならない者は2号車に、このたびは自分だけで癒すことができる者は1号車に集合しました。T酒造の差し入れもあり、1号車では、出発と同時に乾杯と相成りました。なかなかの酒盛りで、途中幹事がコンビンで飲み物を仕入れているところを見てしまいました。それどころか、1時間ごとにトイレ休憩を申し入れ、中には、「卓話でさえ30分」などと、わけがわからんことをおめく者もあり。また、日頃の不興を取り戻すべく、奥方と会話をはずませる者も多くおりました。なにしろ親睦と友愛であります。

それでも、昼前には、「福井県立恐竜博物館」に辿り着きました。一同は恐竜の生きていた時代に思いを馳せ、また、次は自分達が博物館に入るのかなどと、無常を感じる者もありました。恐竜ワインや、恐竜ステーキを作ったら売れるなどと、アドバイスをする者もいました。

昼過ぎ、ほとんどのメンバーは、すっかりできあがっていました。が、鯖江「一之松」で、愉しみにしていた越前蟹づくしが始まると、また酒も進み、多くの者が完食という素晴らしい結果でありました。黙々と蟹を剥き、喰う……それは、いつも皆に

奉仕し、抑圧されているかのような（?）、すごい迫力でありました。帰り道は、敦賀で、海産物、かまぼこなど、家族を残してきたものは、アライバイ的に土産物を大量に買い求め、帰路につきました。

帰路、これからも、配偶者や、子ども、また両親だけでなく、ロータリーのさまざまなプログラムに参加している「ロータリー家族」にも、輪を広げ、奉仕をしていこうという思いが強くなってきました。

●豊橋RC（東三河分区）

豊橋RC年末家族会

クラブ会報委員長 青木良浩

去る12月18日、8月にオープンしたばかりの『ホテルアークリッシュ豊橋』において、豊橋ロータリー高齡の年末家族会が行われました。会員自らの「手作り」を伝統とする豊橋ロータリーでもっとも盛り上がるこの家族会に、下は1歳から上は90歳まで150名もの会員とそのご家族が参加されました。

今年のテーマは「弦楽四重奏」と「マジック」。名古屋音大のカルテット『Amico』による、クリスマス

メドレーを中心とした美しい演奏の後には、マジシャン ヤスアキ・ナイトーによる楽しいマジックの始まり。マジックが鮮やかに繰り出されるたびに、会場は拍手と感嘆に沸きました。特に、舞台のすぐ前に設けられた子供専用の『特別席』では、何とかタネを見破ろうと必死な子・ひたすら手品の不思議さに見とれる子たちの目がマジシャンの一举手一投足にくぎづけでした。そして、そんな様子を見守るRC会員の目はみんなとても温かで、豊橋ロータリーの「手作り」のよさを改めて感じた楽しいひと時でした。





●豊田東RC(西三河中分区)
悦楽の忘年家族例会

クラブ奉仕委員長 愛知 治

ときは、平成20年12月9日夜の戸張が降りて、豊田東ロータリークラブ忘年家族例会がホテルトヨタキャッスル華の間で開かれた。集う衆は当クラブのメンバーとその夫人、90余名華やかな装いの騎士達である。

今年は和やかに、大人のムードで語ろうと子供の居ない晩餐会となった。

会は近藤親睦活動委員長が「我々の毎週の寄り合いの場、バックingham宮殿へようこそ」の発声で一挙にくつろいだ雰囲気となり始まった。

美人アシスタントの司会進行も加わり、まず米本会長が提唱する「楽」について、楽の創造とは、まず自分自身が楽しむことの挨拶がありスタート。

新入会員の紹介では、「私こそ会員に相応しい」と自らセールストークを声高らかにPRする場面もあって和気あいあいのムードが更に高まった。次年度の役員紹介では、浅井会長予定者が「協力してく



れるスタッフを口説いたので、私は任せておけば大丈夫。」と言え、各スタッフは「俺流にやると、それぞれの個性あふれる特技をユーモラスに紹介。」当クラブ30周年記念への盛り上がりが一層期待できるものになった。

お楽しみのメインイベント「あいざき進也ショー」はデビュー曲



「気になる17才」に始まり「Again」君のもとへ」まで勢力的な歌声が部屋いっぱいに響いた。若いメンバーの夫人の中には、踊りだす人、青春時代を思い返す一瞬もあり、30年を超す歌手生活で磨かれた軽妙なトークに酔い、テーブルのワインがゆれ酒があふれ、ビールが泡立つ様で、予定時間をはるかに越えての熱演となった。友人でもある川崎幹事が1人で、しかも東京の居酒屋で交渉した出演料で納まるかと委員長の心配も消しとんで楽しい家族例会は終わった。

担当委員会の全員の協力と入念な準備を重ねた委員長のリーダー

シップが相まって今回の宴は悦楽の忘年家族例会となった。

随筆

●あまRC(西尾張分区)

大野寺の桜

坂神裕城

ここ数年、桜の季節になると、奈良の大野寺へ出かけるようになった。大野寺は室生寺の入口にある小さな古刹で、伝承では、空海が室生寺の西の大門と定めたとのことである。

この寺に小糸桜というしだれ桜の巨木が二本ある。樹齢三百年の老桜で、毎年、限りなく白に近い薄紅の可憐な花を咲かせる。しだれ桜特有の何か物寂しげな風情が漂う、この花に惹かれて出かけるのである。

若い頃は、花にもほとんど関心がなかったが、老境に差し掛かる年代になるとともに、何故か、自然の風物に心が動くようになった。妻は、私の心境の変化を笑うが、こればかりは、説明のしようがない。

日本人は、万葉の昔から、桜をこよなく愛してきた。開花を待ち侘



び、満開を愛で、落花を惜しみながら、心の動きを歌に託してきたが、桜の散る姿に死を連想する風潮が起こったのはいつ頃からだろうか。特に、戦時中は、桜のように散華することが、人間として尊いこととされた。人は、桜のように潔く散る散り際が大切だ。つまり、戦死を賛美するための方便として使われたような気がしてならない。だから、私は、散る桜の姿よりも一所懸命咲いている満開の桜の方が好きだ。

満開の小糸桜の清楚な美しさを満喫した後は、室生寺の門前の食堂

で、精進料理と般若湯で陶然とした気分になり、帰路に就く。これこそ凡人のささやかな楽しみであり、至福の時といえるのではなからうか。

雑感

●名古屋中RC(西名古屋分区分)

2008年版 瓦版

伊藤秀樹

2008年版 瓦版でござい！



この頃、世間を騒がす醜い出来事尊属殺人 無差別殺人 もっと寂しい出来事は、家のほしい人イムローン

人間の頭脳は計り知れない知恵を示すけれど、かわりに底知れない冷たさを産む

スポーツの世界も巨額の金の契約ブーム、あっちのサッカー、こっちのメジャー、はたまた国技にいた

るまで八百長ゲームとそしられて、渡る世間は鬼ばかり

小耳に聴きたい話 還暦前のデグーにして切々と歌うは、愛のままで、歌詞を理解して減った離婚率

「日本人知らずとも持って育つは感受性」

歌で離婚が減るならば、みんな歌で直そう日本の悪い癖

世界中 100年に1度の大恐慌 トヨタショックにソニーショック

企業の所為ばかりにしないように 出口の無いトンネルがないように

に、太陽の出来ない地球は無い 今日暮らしを嘆くより、明日に

川柳

●豊田三好RC(西三河中分区分)

銀色の樹氷のようなイルミネーション

さざんかに袖をひかれしほほ笑みて

村上ふさ子

近藤純子

見つけよう希望の道を 不平不満はすぐ見つけ、なかなか言えない感謝の言葉

一汁一菜をおいしいと感じるときが来たかもね

経済繁栄の下の衣食住、それより素敵な自然の中の衣食住

分かってほしい！ 日教組と分裂家庭に

「幸せは心の中に詰まっているんだよ」と小さな時に教えたい

奇妙な意地を教えるより、明るい未来を説いてほしい

次回はいつになるのやら、明るい瓦版



ガバナー

リビエ

名古屋城検定

公式訪問と地区大会が終わって心の重しの取れた長閑な貴重な一日、今流行りの観光検定の一つ、名古屋城検定というのを受けてきました。事のついでの探訪が嵩じた趣味の城です…。

ご存じの様に、現在、愛知県内に建造物の国宝が三つあります。三河吉良町の曹洞宗金蓮寺弥陀堂、あと二つはいずれも犬山市にある犬山城と織田有楽の茶室如庵。金蓮寺弥陀堂は鎌倉初期の寺社建築、犬山城は桃山期の城郭建築、如庵は江戸初期の草庵風数寄屋建築です(焼失前国宝名古屋城本丸御殿は武家書院造り)。全国の城郭で天守閣の現存する城はわずか一二城、その中で国宝となっているのは、姫路城、彦根城、松本城、それに犬山城です(二条城天守閣は一七五〇年頃に焼失し、二の丸御殿のみが国宝)。明治維新・幕末動乱期まで健在であった天守は六五城。それを乗り切って今次大戦開戦まで現存した天守は二〇。大戦中に焼失した天守は七城。和歌山城・水戸城・広島城・岡山城・大垣城・福山城、それに昭和五年城郭建築として本丸御殿とともに国宝第一号(姫路城は翌六年第二号)に指定された名古屋城も、昭和二〇年五月一日正午前、終戦をわずか三カ月後にして、天守閣・本丸御殿ともに永久に雄姿を消しました。惜しい哉!!

何事によらず、たてよこ・前後左右、他との対比における検討評価・位置付けが肝要です。その結果、名古屋城の特筆すべき事項は以下の通りです。

比較対照した主な城は、公的な城として江戸城(二度建替え)大坂城(徳川再建)・二条城・駿府城、準公的な城として福山城、大城郭として江戸城・大坂城に加えて熊本城、美的観点から姫路城・彦根城・松本城・安土城等です。

○江戸城・大坂城の天守が一六五〇年頃迄に、熊本城が明治維新後焼失した中で、唯一名古屋城は大城郭として、築城以来今次大戦終結時まで三〇〇年以上に亘り天守・本丸御殿揃いで存続してきたこと。

○名古屋城は二條城とともに、城郭建築史上普請・作事において最高の完成度の域に達した城であったこと。

○今再建中の名古屋城本丸御殿は二条城二の丸御殿とともに、床・棚・付書院・帳台構の正式の座敷飾りを備え、壁・襖は金碧障壁画が描かれ、天井は折上小組格天井の武家書院造建築の双壁であり、その建築・絵画・工芸等美術的価値において(江戸城・両大坂城・安土城を除き)他に追隨するものがなかったこと。

○名古屋城は、尾張藩一藩の城でありながら、江戸城・大坂城の幕府の公的な大城郭に伍する天下普請の唯一の大城郭(五層五階地下一階・総床面積日本一、本丸から三の丸までの総面積三五万坪第三位)であること。

○天守閣・小天守と三つの隅櫓とその間を繋ぐ多聞櫓(妻側三間の長屋様の長大な建物)が広大な本丸郭(曲輪)を構成する大連立の様式であること。他に二條城の例があるのみ。

○各郭の出入り口の枳形虎口は多聞櫓で三方を囲み、櫓門と高麗門



投稿要領

- 1 提言、苦情、話題、問答、意見など
- 2 ローターリー文芸
 - (1) 随筆
 - (2) 俳句・短歌・川柳ほか
 - (3) 善語座右・四字熟語（座右の銘・大名人語的な文・モットーなど）
- 3 ローターリー会員相互の親睦を深めるもの
- 4 同好会、趣味の会など
- 5 クラブの催しなど
- 6 クラブの奉仕活動など

で固め、本丸枳形は日本最大の馬出しで防禦していること。

○二の丸御殿内には池泉回遊式の広大な庭園を備え、城郭内庭園として他に例がないこと（城外北側にも数万坪の庭園があった）。

○木曾の良材に恵まれ天守・御殿とも松・杉を控えて良質の無節の檜が大量に使用されていること（天守一階の隅柱は四一センチ角、管柱も三七センチ角（他城は三〇センチ以下、現在の一般住宅は一〇・五センチ）と特太の柱）。

○天守閣群の全体の美しさは白鷺城姫路城に一步を譲るにしても、彦根城・松本城に劣らず、早く焼失した江戸城・大坂城にも優るものであること。

◎総合的に、名古屋城天守閣の全体の美しさは、一・二階とも南北一七間（一間は七尺）東西一五間、三階一三間一一間、四階一〇間八間、五階八間六間という通減率（四・三・二）、一・二階は却って通減なしとなっている均斉、白亜の漆喰壁に緑青の噴いた銅板瓦の上品な対比、その上に二メートル四〇センチもある金の鯨鯨の燦然たる黄金の輝き（金鯨は江戸城・大坂城のみ）、四面に取り付けられた最多の入母屋破風・千鳥破風・唐破風、四隅の屋根の適度の反り

上がり、最上階の窓の上下の長押（なげし）風の装飾、石垣・建物の高さ・横巾の釣合い等々の総合によるものである。

さて、縦軸・横軸、すべての城が現在までであるとして、総合順位の十傑を選定するとすれば、議論の余地なく、一位江戸城、二位大坂城、三位名古屋城の順位は動かし難い。四位以下が少々難題ですが、四位は豊臣大坂城、五位は安土城、六位は二条城、七位は姫路城、八位は熊本城、九位は駿府城、十位は彦根城でしょう。松本城・福山城・広島城…は次点で我慢を乞う。

皆さんも各自評価をしてみてください。

現存の城の中だけで評価するのは、興味が沸きません。

何よりも今は無いというだけで除外するのは**真実**の評価と離れますし、心ならずも姿を消した城に公平でもありません。当時の関係者を含めて**好意と友情**を深める由縁にもなりません。**みんなの勉強のため**にもなりません。

陽気が良くなりましたら、一度、ご案内致しましょう。

- 原稿量 …… 概ね400字程度以内でお願いします。
- 宛先 …… ガバナー事務所、『奉仕の理想』編集室宛 18 ページ参照
写真があれば添えてください。
投稿者のクラブでの肩書、お名前を明記してください。
- 形態 …… Eメール governor08-09@rotary2760.org
締切 …… 発刊の2ヶ月前を締め切りとします。
(例 4月号の締め切り…2月末)